

2014(平成26)年度

学校法人 南山学園
事業計画書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

2014年度法人事務局事業計画

I. 2014年度事業計画の概要

2014年度における法人事務局は、次の主な事業に取り組みます。

- ・法人全体の財政に係る改善計画について長期目標を策定するとともに、年度ごとの目標を設定します。その上で実行結果を検証し、必要な見直しを行います。
- ・事業報告書ならびに計画書について、学園内外の関係者がより理解しやすい書式に変更し、新たに事業計画書も Web ページに掲載して広く情報を公開します。
- ・学園史料室と大学史料室を統合して、南山アーカイブズの運営を開始します。
- ・前年度に引き続き、遊休資産の活用または処分に取り組みます。また現在活用中の資産に関して実態を分析し、改善の可能性を検討します。

II. 新規事業

1. 法人事務局全体

(1) 事業に係る情報の公開

情報公開の観点から事業報告書ならびに事業計画書の書式を、学園内外の関係者がより理解しやすい内容に変更します。さらに、従来の事業報告書に加えて、事業計画書についても Web ページに掲載して広く公開します。

2. その他

(1) 戦略的学園広報の展開

新聞広告について、より広く東海エリアをカバーするため、従来の 1 紙から 2 紙に増やして掲出します。また 1/2 面広告の他に全面広告も加えて、従来の広報効果を維持しつつ、より印象的な紙面展開を行い、今まででアピールできなかった層への浸透を図ります。

(2) 給与台帳システム(MS-Access)のバージョンアップ

Windows XP、Office2003 のマイクロソフト社によるサポートが終了することに伴い、現在導入している人事・給与システム「COMPANY」に付加している給与台帳システム(MS-Access を使用)のバージョンを、2003 から 2013 にバージョンアップします。これによりシステムのアップデート等サポート体制が継続できるとともに、人事・給与システムの安定した稼働が可能となります。

(3) 財政改善計画の策定とその実行

資産運用問題により悪化した財政状況を立て直すには、法人全体の財政に係る改善計画を立案し、その実行結果を毎年検証した上で必要な見直しを行っていく必要があります。

2014 年度においては改善計画の長期目標を策定するとともに、年度ごとの目標を設定します。具体的には、貸借対照表関係財務分析に係る目標設定および将来構想事業計画を明らかにした財務シミュレーション策定への取り組みを強化します。また、退職給与引当特定資産および減価償却引当特定資産の計画的な積立てや、安定的な資金運用収入を得るための安全性の高いポートフォリオ構築に取り組みます。

(4) 学校法人会計基準改正への対応

2015 年度からの学校法人会計基準改正に向けて、監査法人と連携し公認会計士協会等から発信される情報に基づき学園内の対応方針を策定します。予算書や決算報告書の作成、事業計画の策定および財政の自己点検・評価のあり方を検討します。また、改正内容の理解を深めるため、説明会の実施を検討します。

(5) 財務システムの更新

学校法人会計基準改正以降の長期の使用に耐え得ることを念頭に、財務システムとの関連性が高い固定資産管理システムを含めたシステムを更新します。

2013年度からシステム更新に係る分析を開始しており、2014年10月に新システムを稼働する予定です。Webサービスをベースとしマルチブラウザ対応やサーバのクラウド化も行います。

(6) 大学名古屋キャンパス北の八雲土地山林の高木伐採

大学名古屋キャンパス北(名古屋市昭和区八雲町)に所在する山林においては高木が茂っており、強風時等には激しく揺れるため、複数の近隣住民から倒木による被害を懸念する声が寄せられています。また、日照の妨げにもなっていることから伐採対応依頼の申し入れを受けています。こうしたことを踏まえ、北側隣地境界から5mの間の樹木を伐採します。これにより近隣住民の懸念を取り除く効果が期待できます。

Ⅲ. 継続事業

1. 施設・設備

(1) ライネルス館外壁撥水 第三次工事 (南・東・西面)

学園講堂においては、外壁の痛みが目立ち始めており北面および西面の工事・調査結果を参考に、2013年度に東面および南面の外壁改修工事を行いました。引き続き2014年度からはライネルス館の南・東・西面の改修工事を開始し、2015年度には北面の改修を予定しています。なお、ライネルス館東翼棟については耐震上長期使用・保存が難しいことなどから今回の改修計画には含みません。これらの一連の改修工事により国指定登録有形文化財や名古屋市都市景観重要建築物となっているライネルス館、学園講堂を長期的に維持・管理することが可能となります。

(2) 土地・建物管理

2012年度から開始した土地・建物の実態と台帳等との整合性を図る作業を継続して行います。2014年度は、いりなか地区の学校および法人事務局について、不動産登記、財産目録および土地・建物台帳と実態との齟齬の有無を調査し、必要に応じて適正に対処します。

(3) 遊休資産の活用または処分

2012年度から継続的に取り組んでいる遊休資産の活用または処分について、2014年度も引き続き取り組みます。なお、2014年度は、現在活用されている資産に関しても活用実態を分析し、その有効性や課題を取り上げて、改善等の可能性について提案します。

2. その他

(1) 学園広報活動

引き続き、学園としての各種広報誌やWebページ等による広報を行うとともに、従来の展開方法について費用対効果を踏まえて検証し、より効果的な活動となるよう施策を図ります。

(2) 学園会計・業務監査

会計・業務監査の計画、実施ならびに報告に関する基本事項に基づき、南山大学学務部を対象として会計・業務監査を実施するとともに、運営状況、効果等について検証します。

(3) 南山アーカイブズの設置

学園史料室と大学史料室の統合を行い、2014年9月から南山アーカイブズとしての運営が開始できるようにします。このために、ライネルス館の内部改修と南山アーカイブズ設立準備委員会で承認される事項を確実に実施し、滞りなく南山アーカイブズの業務が開始できるように取り組みます。

(4) 防災のための危機管理のあり方検討

南山大学で「地震等災害対策マニュアル」が作成されたことに伴い、法人事務局においても同マニュアルを参考に危機管理のあり方の見直しを行うとともに、大学以外の学校に対しても、積極的な危機管理への取り組みとして、学校間の防災協力体制の構築を呼び掛けることとします。

(5) 2014年度学園事務職員等研修

①危機管理研修の実施

日常業務で生じる危機的な状況に対して事務職員等の対応力を養うため、ケーススタディにもとづき対応の方法を学びます。研修は職階別に分け、それぞれの役職の立場で意見交換を行い、講師のアドバイスを受けます。

②メンタルヘルス研修の実施

担当する業務の質・量や配置された職場環境等で精神的に負荷がかかり、心身の不調を引き起こす事務職員等が増えています。予防的な対応や適切な人事管理を学ぶことにより、全ての事務職員等が心身ともに健康で業務に取り組めることを目標とします。

IV. 検討課題

1. 学園全体

(1) 調査体制の整備

官公庁に対する補助金申請および調査について、総務事務室と各学校との役割分担を明確にするとともに、基礎データの整理、提出書類の作成、根拠資料の保管等のマニュアルを全ての学校で統一することによって、ミスを最小限にする方法を検討します。

(2) 募金事務体制の整備

全ての学校および法人事務局で統一された寄附台帳を作成・整備し、法人事務局で統括できる体制の構築を検討します。また、従来募金活動を行ってこなかった学校に対して募金への取り組みが進むように助言や支援を行う方法も併せて検討します。

以上

2014年度南山大学事業計画

I. 2014年度事業計画の概要

2014年度の事業計画は、建学の理念である「キリスト教世界観に基づく学校教育」や教育モットーである「人間の尊厳のために」を踏まえ、キャンパス統合の目標である、「One Campus, Many Skills」を実現することを目指して、策定しました。これは、学生があらゆる種類の土壌に根を張り巡らせる環境を提供するとともに、本学のカリキュラムが学生それぞれの個人的成長に寄与し、かつ今日のグローバル社会における全ての人々のニーズに真に答えることを意味します。最重要課題として、①南山教育の強化・発展、②学部・学科の改組改編の実行、③留学プログラムの多様化や国際科目群のさらなる充実などのグローバル化、④クォーター制導入の検討を挙げました。

将来構想については、キャンパス統合の実現やその先のキャンパス計画の策定を行い、情報センターと国際センターの設置の準備を進め、また社会のニーズに応えた大学院教育のあり方を考えます。

教育・研究では、外国語教育の強化や情報化とこれを活用した授業の改善、海外を含む他大学との協働プログラムの促進、科研費等研究費およびGPの積極的獲得、学生支援のさらなる充実などを挙げました。

社会貢献としては、産学官の連携を推進し、エクステンション・カレッジのさらなる充実などの地域貢献を行っていきます。入試については、今後も18歳人口が減少し続けていくことを踏まえて、各学部・学科での魅力的なカリキュラムの検討が必要です。就職については、さらに充実した就職支援体制を検討します。広報では、Webページの活用などを挙げました。

II. 新規事業

1. 大学全体

(1) キャンパス統合の実現

瀬戸キャンパスを名古屋キャンパスに移転させてキャンパス統合を実現する準備を進めます。レーモンド設計を受け継いで全体像と整合する形で、適切な予算の中で、さまざまな条件を総合的に考慮しながら名古屋キャンパスの整備を行います。キャンパス統合に伴う組織の改編やキャンパス整備についての実務的な業務を行う将来構想推進室を設置しました。理工学部については、2015年度に瀬戸キャンパスから名古屋キャンパスに移転できるように準備を進めます。

(2) 情報センターの設置準備

キャンパス統合に際して、情報センターを新たに設置する準備を進めます。2015年度の理工学部の移転に間に合うように、情報センター設置準備委員会を立ち上げ、準備を進めていきます。これとともに、情報環境ポリシーを策定し、情報環境を整備し、全学生向けの情報倫理教育の準備も進めていきます。

(3) 国際センターの設置準備

キャンパス統合に際して、国際センターを新たに設置する準備を進めます。国際センターは、国際教育センターを強化・拡大して、国際的な教育および研究の支援をその任務とします。国際化推進本部の報告書「国際センター設立について」に基づき組織された準備委員会において、2017年度から始動できるよう設置のための準備を進めます。

2. 施設・設備

(1) キャンパス統合(第一期)に向けた新棟建設

理工学部と理工学研究科博士前期課程の移転、および理工学研究科博士後期課程と情報センターの設置に向けて、新棟を完成させます。

(2) キャンパス整備計画の策定準備

2017年度の総合政策学部の移転に合わせて、将来構想委員会を中心に、キャンパス整備計画を策定するために準備を進めます。

3. 教育・研究

(1) 共通教育科目のカリキュラム統合

名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスで分かれている共通教育科目のカリキュラムを2015年度から一本化するよう、現在両キャンパスの共通教育委員会が検討を進めていますが、これを契機として教育の核の強化・発展に向けたさらなる検討を進めます。例えば、理工学部が名古屋キャンパスに移転されるこの際に、情報倫理教育を共通教育科目のなかで提供することや自然科学系の共通教育を強化すること、全学生に英語の運用能力を高め、二つ目の外国語を使えるレベルまで学ぶ機会を提供することなどが考えられます。

(2) 学生支援の拡充

今日、大学において、学生支援はますます重要なものとなっています。身体的、精神的な障がいを持つ学生への支援も南山大学にとって重要です。こうした学生を積極的に受け入れていくため、教務課および学生部と協力して、各学部・学科においてサポートを進めていくようにします。また勉学に対する意欲があり成果を残してきているが、経済的事情が理由で退学を余儀無くされようとしている学生に対して、今年度も、割り当てられた予算の中で適切な奨学金や支援情報を需要に応じて提供していきます。他にも、留学生支援、教職センターによる教職を目指す学生の支援、卒業生や在学学生による就職支援、TA制度など、これまで行ってきた学生支援をさらに充実させるようにします。

Ⅲ. 継続事業

1. 大学全体

(1) 理工学研究科博士後期課程の設置と多様な受け入れ

2015年度の理工学研究科博士後期課程の設置を目指して準備を進めていきます。また理工学研究科や社会科学研究科など大学院において、多様な学生、特に社会人のさらなる受け入れを検討します。

(2) ピア・レビュー委員会とPDCAサイクル

本学が「絶えざる自己改革」を行っていくために、ピア・レビュー委員会においてきめ細かい評価とそれに基づいた改善提案を行っていきます。また教育目標、学生の受け入れ方針、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証することも含め、各学部・学科・研究科においてもPDCAサイクルを円滑にまわすための運営のあり方について引き続き検討をしていきます。

(3) グローバル化と外国語教育

今年度も引き続きグローバル化は重要な課題です。具体的には、まず海外派遣と受け入れの両面から留学プログラムをさらに多様化します。外国語学部以外の学部から留学する学生を増やすことや日本語未修の留学生の受け入れを総合政策学部以外でも展開することを検討します。また英語のみで修了できるプログラムについて、まずは大学院レベルで検討をします。受け入れ態勢の充実のためハウジングの問題に対するサポートも検討します。

第二外国語を通じた学びによって、自分の国を外から見るとは、必ずや学生の成長につながります。それを支えるために、外国語の教育を行うための組織について検討します。

2. 施設・設備

(1) 学内環境整備

学生や教職員が快適に過ごせるキャンパスにするために、キャンパス全体計画の中で、既存の設備についても必要に応じて順次改修していきます。たとえば、学生が使い慣れた情報通信機器を本学での学習に活用できるように情報環境の整備を行っていきます。さらに、今後も使われる予定の古くからある棟の一部の教室の環境からトイレの設備に至るまで、より機能的なものにしていきます。

(2) 省エネ対策

これまでも、南山学園環境宣言に基づいて、毎月エネルギー消費量を周知し、構成員の意識向上を図るなど、省エネに努めてきました。今年度も、大学エネルギー管理委員会委員長(総務担当副学長)のリーダーシップのもと、引き続き省エネ対策に取り組んでいきます。

3. 教育・研究

(1) 国際科目群

今年度で3年目となる「国際科目群」について、引き続き科目および担当教員を質・量ともにさらに充実していきます。また、英語以外のクラスの開講や別科生や短期で滞在する留学生が受講できるように柔軟な運用を進めていくよう検討します。

(2) 情報化と授業形式の改善

今後情報センターの設置とあわせたインターネット環境やeラーニング環境の整備により、情報環境がますます整っていくことが予想されます。こうした環境の整備を授業にも反映させ、これらを活用して授業の改善に役立てていくよう構成員に周知していきます。

(3) 科研費等外部資金の積極的な獲得

今年度も原則としてすべての構成員が何らかの形で科学研究費等の外部資金の獲得に向けて積極的に取り組むよう促していきます。その際には、科研費だけでなく様々な可能性を広く検討していくよう、構成員に周知します。また外部資金獲得者の負担を軽減することを検討し、引き続きより積極的に外部資金の獲得を組織的に支援していきます。

(4) 学園内教育連携

今年度も、大学は学園のリーダーとして南山の一貫教育に積極的に取り組んでいきます。高大連携の強化に取り組み、また学園内推薦のあり方についても検討を続けていきます。もちろん本学が学園内連携においてリーダーシップを発揮するためには、本学の研究・教育を充実させ、「学園内各単位校から選ばれる南山大学」となるように、日々努力することが最も重要であることは言うまでもありません。

(5) 他大学との連携の強化

他大学との連携や協働プログラムを今年度も推し進めていきます。例えば、豊田工業大学との間では、共通教育科目における単位互換や特に理工学研究科との間での共同研究の推進が考えられます。また国内外のカトリック系大学との間の関係の強化を図っていきます。

4. 社会貢献

(1) 地域社会への貢献

社会人を対象とする教育の需要が高まっていくことを受けて、特に地域の方のこうした需要に応える機関として、エクステンション・カレッジのさらなる充実を図っていきます。また昨年度は人類学博物館がリニューアルオープンをしました。今後も様々な魅力的な企画を行い、開かれた博物館として学外の諸機関とのさらなる連携を進めていきます。

災害時において学生や教職員の安全を確保するため、危機管理体制の整備を継続する必要があります。併せて、今後も地域を含めた危機管理対策を考え、地域社会との連携を進めていきます。

(2) 産学官の連携

今年度も他大学や企業、国、地方自治体、公益財団法人との間の連携による研究および教育の改

善プログラムを進めていきます。またこれまでの連携を継続しつつ、新たな連携先を幅広く模索していきます。

5. その他

(1) 就職支援の拡充

本年度も引き続き内定率 100%を目指して、就職支援を行っていきます。そのために、キャリアサポート委員会や就職委員会を中心に、教職センターやエクステンション・カレッジ委員会、各学部・学科との連携を進めて、さらに充実した就職支援体制を築いていきます。その一環として、今年度は、卒業生によるキャリア・アドバイザー制度を立ち上げます。また、具体的な検討課題として、例えば、キャリア・カウンセラーの拡充や 2016 年 3 月卒業予定者からの就職活動の時期の変更への対応、キャンパス統合に合わせたキャリア支援体制の整備などが挙げられます。

(2) 入試および広報

入試については、今後も 18 歳人口が減少し続けていくことを踏まえて、適正な対応を取り続けていきます。最も重要なのは各学部・学科での魅力的なプログラムであり、近い将来の改組が予定されていない学部・学科においても、現行のカリキュラムの見直しを行っていく必要があります。

広報については、これまでの広報に加えて、Facebook や YouTube、スマートフォンアプリなどの多様な媒体を通じた戦略的な広報を進めていきます。また海外を含めた同窓会や後援会との連携を強化していきます。

IV. 検討課題

1. 大学全体

(1) クォーター制導入の検討

クォーター制は、集中による学習効果や短期留学便宜の向上のみならず、研究環境の充実にも資することが期待されます。キャンパス統合の最終段階である 2017 年度に開始するべく、教務委員会や学生部を中心に具体的な準備段階に入ります。

(2) 学部・学科の改組

学部・学科の実現可能な将来性のあるかたちを根本から考えていくことを広く構成員に呼びかけ、そうした意見をもとに方針を決めていきます。外国語学部は定められた大枠に従い、より魅力のある学部になるように改組に向けた体策の検討を開始します。短期大学部は、社会からのニーズの変化に対応し、英米学科の地域研究や言語学といった教育分野を補完するような方向への発展的解消を行う方向で具体策の検討を行います。既存の学部においても学部の中でより魅力的な学科やコースの体制を検討します。学生の選択の幅を広げるような学部・学科のありかたを踏まえて、定員の再配置についても引き続き検討します。

2. 施設・設備

(1) 交流会館とロゴスセンターの将来計画

交流会館、ロゴスセンターの将来計画も検討していきます。

3. 教育・研究

(1) 文部科学省研究・教育拠点形成事業助成金獲得体制の見直し

GP など研究・教育の強化推進のための各種助成金獲得のため、学部・研究科をはじめとする学内各関係単位で申請の可能性を検討します。また申請を促進するために、申請に関わる学内の支援体制や獲得した教員の負担の軽減を図ることなどを検討します。

(2) 図書館の蔵書運用体制の改善

今年度から図書館で学術機関リポジトリの運用が開始されます。これからも各種資料を電子化し、

さらにリポジトリの整備を進めていきます。また図書館の蔵書運用体制を他大学と連携し改善していくよう検討を続けていきます。

4. その他

(1) 学部・学科単位の Web サイトの充実

戦略的な広報の観点から各学部・学科の Web ページを適切に活用することを検討していきます。

以 上

2014年度南山高等学校・中学校（男子部）事業計画

I. 2014年度事業計画の概要

高等学校の数学・理科・社会の内容の一部を中学校で履修する「併設型中学校・高等学校」のカリキュラム編成で、完全中高6カ年一貫教育の特色を活かしていきます。創立以来培ってきた「学習・進学指導」・「国際的視野の育成」、そしてそれらを支え導いてきた南山の根幹とも言える「キリスト教教育、心の教育」の3つの教育理念を基本とします。宗教の授業や宗教儀式で養われる人間としての正しい価値観が、生徒の行動の規範となるよう平和教育を行います。また日々の授業を中心とした学習活動に加え、異年齢集団による部活動や生徒会活動・文化祭を通して、社会性や豊かな人間性を育成します。文化祭等様々な学校行事と宿泊を伴う学年行事を、各教科のカリキュラムやHR活動と連動させることにより、生徒の自立と社会性の発達に結び付け、系統立ったキャリア教育を実施します。

新校舎は、2015年度着工、2017年度完成を目指しています。今年度は「教科教育力」の向上をテーマに話し合いを重ねてきた「将来構想委員会」や、各教科の立場から出た意見を集約する「教育課程委員会」、少人数で自由に発言がしやすい「教科会」・「校務分掌会」等、多様な場でも出された「南山男子部の目指す教育像」を具体的に新校舎の建築に反映させるため、「建築委員会」で議論していきます。議論は委員会の通信等で報告し、内容によっては全員が参加する「職員会議」に諮ることとなります。新校舎は、豊かな学びや生き甲斐を育む環境を創り、多くの出会いを生み出す可能性を秘めたものでありたいと思っています。その思いの全てを新校舎建築に託します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 高等学校新学習指導要領に則った新カリキュラムの完全実施

2013年度の中学校新学習指導要領完全実施に引き続き、理数科目だけが先行していた高等学校も3学年が新学習指導要領に従って、中高6カ年一貫教育の特色を生かした新カリキュラムを実施します。高2Iコース（文系）では学校設定科目として「社会科探究ゼミ」を設け、ほぼ大学レベルのテーマ史をゼミ形式で学ぶことにより、文系生徒の総合的な学力育成に努めています。高3では、大学入試センター試験の理科の受験科目が確定したことを鑑み、授業時間数を増加しました。

(2) 新校舎建設に向けての具体的検討

新校舎の基本構想として、男子部の目指す教育像を検討し、現在抱えている諸課題を整理することで、新校舎に何が求められるかを把握し、その実現可能性を組み立てていきます。具体的には、既存の聖堂を改築し、カトリック学校である男子部の一つのシンボルとし、図書館を学びの中心とします。また、各教科や分掌から出された男子部の目指す教育像を新校舎建築に反映させるため、教室棟の配置や必要な施設・設備を建築委員会で議論していきます。1200名の在校生が中高6年間の学校生活を通じて、生徒同士、教職員と多様な関わり合いを持てるよう、「人間の尊厳のために」を具現化できるような新校舎を目指します。

(3) Web ページ（保護者・在校生・卒業生向け）の拡充

きめ細かな連携を図れるよう、保護者・在校生・卒業生に向けての情報発信を充実させます。男子部に興味・関心のある方々だけでなく、保護者・在校生に対して学校行事・学年行事、部活動などの情報を、また卒業生に対しては再受験や各種証明書等の情報を提供します。大学入試合格一覧や部活動のページの更新を随時行います。個人情報の問題もあることから、公開する内容・方法を吟味し、有効活用出来るよう検討します。

2. 施設・設備

(1) プリンタ・カラーレーザープリンタ・PCの購入

教科用、教員用のプリンタ・カラーレーザープリンタ・PCが老朽化、故障が頻発しているので買い替え、

授業教材の充実を図ります。また図書館閲覧用の PC の買い替えで生徒はより調べ学習が容易になります。

(2) ブラスバンド部の楽器購入

35 年前の創部以来使用してきた楽器を年次進行で買い替えていきます。ブラスバンド部は、入学式に始まり卒業式までの校内の儀式や文化祭、女子部とのジョイントコンサート、南山大学附属小学校演奏会、定期的な老人ホームへの施設慰問での演奏を実施しており、今後も学内だけでなく地域社会への貢献が期待できます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 中長期を見通した将来構想の策定

新校舎の基本構想構築とともに、将来構想委員会を中心として、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論していきます。その合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、新校舎建設計画及び財政見通し等、内的刷新が図れるよう将来計画を議論していきます。

(2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

カトリック学校として宗教の授業を何より大切にしています。中学では、最初に男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高校では、古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するように、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

(3) 教職員の研修・研鑽・自己点検

学期に 1 度、西神父・ダシオン神父・ジョン神父による「カトリック学校の教員として」のテーマで教職員研修を実施します。カトリック学校の教員に相応しい研修・研鑽・自己点検の機会としています。

(4) SC との連携による精神的ストレスを抱えた生徒へのサポート

週に 2 日間、臨床心理士の資格を持った SC（スクールカウンセラー）が相談室を開室し、心のケアの必要な生徒及び保護者が利用できるようにしています。SC は、個人情報を守りつつ、該当生徒の担任・学年・カウンセリング委員会と密接な連絡を取り、迅速な連携によって生徒・保護者をサポートしていきます。

(5) 危機管理体制

想定される東海沖地震や火災等自然災害による非常事態発生時において、生徒の安全を確保します。避難訓練は授業中だけでなく生徒の登下校時等様々な状況を想定して実施します。生徒・保護者へは、情報システム委員会やホームページ委員会と連携し、メール配信とホームページによるあらゆる方法で連絡します。毎年新学期には各家庭で「非常用資料」を記入させ、非常事態時の対応を周知徹底します。現在五目御飯等のマジックライスや飲料水・毛布、レスキューシート・簡易トイレ等を 3カ所に分け保管しています。万一 1 学年全員が下校不可能な場合でも 1 週間は学校に留まることができる量です。今後も帰宅困難な生徒に対する食料・日用品等の種類・量を検討し、備蓄・管理をしていきます。

2. 教育

(1) 授業内容の検討

高等学校新学習指導要領による新カリキュラム完全実施に合わせ、授業内容を検討することになりました。定期考査後、各教科で 6 学年全ての試験問題を相互に開示し、指導方針を含めた問題検討会が開かれています。中学校では、基礎学力定着を目指す再テスト制度を見直し、教科によっては課題制度を導入しました。また実施時期も長期休暇を有効に利用して柔軟に対応します。この教科内での定期考査や実力考査の「検討会」を教材研究・授業研究の一助にし、再テスト制度と合わせ、授業力・教育力の向上を図ります。

(2) 中学校「アチーブメントテスト」の実施

中学校では、数学は『体系数学』を、英語は『TREASURE』を教材として使用しています。そこで中 3 の一定時期に「アチーブメントテスト」を実施し、基礎学力の到達度を測ることになりました。問題は原則毎年同じものを使用し、見直しが必要な場合は同レベル・同内容の問題に差し替え、正答率等のデータを分析・

蓄積していきます。生徒には、現在の学習到達状況を把握させ、課題・補充等を通して弱点を克服させます。6年間の中間点で生徒の学力を様々な角度から確認するとともに、その後の指導計画の指針とします。

(3) 6カ年の体系的な進路・進学指導

中学校では日々の授業・定期考査が学校生活の中心です。学力こそ、将来の夢の実現にとって決定的な意味を持つからです。定期考査で50点未満だった生徒は、補充授業を受けて再テストを受けなければなりません。基礎学力の定着を確認するため、妥協は許されません。一方、日々の学習を実践するものとして、中1で「市内探訪」、中2で「職業体験」を実施しています。さらに中3では「高齢者・知的障がい・精神障がい・身体障がい」の4つの分野に分かれ、養護施設や障がいの者の施設、老人保健施設で「福祉体験」をします。訪問先への連絡に始まり、実施当日はもちろん、合同HRを中心とした4回の事前学習や事後のレポート作成、発表会等は、生徒自身が主体になって行っています。これらの中学校の学年行事が、大学受験を含め、進路選択を見据えた高等学校での学習の礎となっています。

高校生になり、将来の目標を持って進路を考える手がかりとして『進路の手引き』が配布されます。「進路」が「真の路」となるよう、高1では自己理解した上で将来の目標を決め、希望する職業を探します。高2は、その目標や職業のためにはどんな学問を学ぶべきか、どんな学部学科を選ぶべきかの時期です。そして高3は志望校の研究をし、目標実現のためにどのように取り組んだらいいのかを実践していく時期です。自己理解のページに始まり、大学入試の仕組みや職業・学問分野の紹介、先輩の合格体験記などが『進路の手引き』には詳述されています。また進路シラバスにあるように、高校では各学年とも年間2回以上外部模試を実施し、6カ年を通した系統的な進学・進路支援の体制を組んでいます。

- [1] オープンクラス：中3以上の生徒を対象とした行事です。様々な授業を通して興味関心を広げ、進路を考える契機となるよう、土曜日にキャリア教育の充実を目指した「オープンクラス」を開講します。将来の自分の姿を描きやすいように、社会の第一線で活躍している本校の卒業生や教員が講師です。
- [2] スタディーサポート：本来は高1対象の「スタディーサポート」を中3の3月に実施して、中学校3年間の学習成果を確認します。基礎学力が定着しているか日頃の学習姿勢を振り返り、今後どのように学習生活を進めていったらよいか、よりよい高校生活のスタートをサポートします。
- [3] 高1オリエンテーション合宿：京都において卒業生や社会人の講話を聴き、高校生になったことを自覚します。京都大学や同志社大学、立命館大学等のキャンパス見学もして大学生を実感します。
- [4] 高1・高2「進路の日」：高1は春と秋の2回、「社会に出たらどうなるのだろうか」「逆算するとそのためには今から何をしていたらいいのだろうか」ということを考えるように、また高2は「大学の様々な学部・学科ではどのような研究ができるのか」ということを理解することを目標として秋に実施します。
- [5] 高2総合講座：全国10数校の大学教授による1講座90分の模擬授業を、午前・午後の2講義受けています。これによって具体的な大学をイメージした進路選択につなげます。
- [6] 高2・高3大学説明会：より正確な大学理解を目的に、毎年6月中旬に早慶上智・関関同立等難関大学の入試課の方から大学の特色や入試方式などを説明してもらいます。本校生だけでなく保護者も参加しています。
- [7] 高2・高3南山大学学園内オープンキャンパス：南山大学の協力のもとで、男子部・女子部・国際校・聖霊の4部合同で学部・学科説明会と模擬授業を行います。説明会・模擬授業後の座談会では、南山大学に入学・在籍している本校の卒業生からキャンパスライフについて生の声を聞くことができます。
- [8] 高3NFS講座：南山大学学園内推薦決定者に対して「大学生活とはどういうものか」「入学式までにやっておきたいこと」などについての講座を開きます。南山大学に通っている学生たちNFS（南山フレッシュマンサポート）が講師を務めます。

進路部・高3の担任と、南山大学の各学部長・学科長との懇談会があり、相互に情報交換をするとともに、男子部卒業生の大学生活を把握する機会となっています。また年度初めには、旧高3担当教員による6年間の学習指導・進路生活・生活指導の経験を共有する「進路の集い」を開催します。各教科とも学年を持上ることが多いので、新年度の生徒指導に大いに役立っています。

(4) 生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めます。始業式や終業式の式典後に生徒へ情報提供をし、明確な指導方針を提示していきます。また、自転車通学者に対する交通安全や学校内外での携帯電話の扱い等、様々な問題に対して合同 HR や講演会を開催し、その問題点を認識させ対処法を学ばせます。

(5) 生徒の自治活動と社会貢献

生徒自治会が自発的・積極的に活動できるよう支援し、行事や議会・委員会活動が一人ひとりの生徒にとって有意義なものとなるよう協力します。具体的には、9月の文化祭と体育祭、2月のスポーツ大会、児童養護施設の子どもたちを招いて行われる3月のスプリングカーニバル、文化行事等、諸行事の一層の充実を目指します。2014年度の文化行事は、5月に劇団うりんこによる『罪と罰』の公演を高校生が、2月には東京芸術座の『12人の怒れる男たち』を中学生が鑑賞します。毎年数千人が来校する最大の学校行事、文化祭は、2013年度に見られた展示の充実や素晴らしい全体運営が継続され、さらに発展することが期待されます。生徒はこれらの取り組みを通じて、プロデュースする力・課題解決能力・人間関係調整力・社会変化に対応する知識や技能が育成され、感受性が研ぎ澄まされていきます。

また、議会と各委員会が中学・高校でそれぞれ取り組んでいる諸活動があります。学内環境の充実、美化の向上、講演会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行、ペットボトルキャップ回収活動、三校（男子部・女子部・中京）合同地域清掃、他校との交流・連携活動です。これらの企画・運営を通して生徒が自治意識・自律意識を醸成させ、校内のみならず地域や社会に目を向けることを期待しています。

(6) 部活動と男女別学の特色を生かした教育の推進

全国大会連続出場の将棋部やアメリカンフットボール部が有名になりましたが、ラグビーや硬式テニス・軟式テニス・水泳・バドミントン・剣道・サッカー・バスケットボールも県大会常連となりました。部活動では、学習活動との両立を図りつつ、自主性・自立性・創造性、他人を思いやることができる好ましい人間関係の育成を目指しています。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策講習会・AED講習会等の講習会を実施しています。文化部は外部の文化発表の場や大会などに積極的に参加し、文化祭での文化部展示や発表の質的向上を図っています。また部活動レベルでの保護者会を実施し、部への理解と支援をいただいています。更に愛知県下唯一の男女別学という特色を生かすため、春には男子部ブラスバンド部・女子部器楽部の合同コンサートを開催するほか、陸上部や演劇部等で合同練習を実施します。

(7) 南山大学・南山大学附属小学校との連携推進

小学校から大学までを有する総合学園の理念に基づき、より充実した教育環境を提供します。南山大学説明会・オープンキャンパス等に積極的に参加することで、大学生活や卒業後の生活に対する視野の拡大を図ります。水泳部や柔道部・アメリカンフットボール等、大学の施設をお借りするだけでなく、技術指導を通じて生徒のレベルアップを図ります。また南山大学附属小学校でのブラスバンド部の演奏会を開催し、児童生徒間の交流を継続します。

(8) オーストラリア研修旅行およびイタリア・キリスト教文化研修旅行

「国際的視野の育成」の観点から2つの海外研修があります。1つは「オーストラリア語学研修」です。中3時での選考に合格した生徒は、2月から毎土曜日にオージーイングリッシュ、オーストラリアの歴史等を事前に研修し、高1の1学期終業式後シドニーに向けて3週間の研修旅行に出発します。シドニーでは午前中に語学研修をし、午後はバディー（ホームステイ先の生徒）のクラスで授業を受けます。朝からバディーのクラスで普通に授業を受けたり、3カ月の交換留学をする生徒もいます。事前研修の充実ぶりと現地でのイングリッシュ・オンリーの生活は、『全国教育旅行』という冊子でも特集で取り上げられました。

もう一つが「イタリア・キリスト教文化研修」です。クリスマスを含んで1週間、パチカン、サンピエトロ寺院のローマ、聖フランチェスコのアッシジ、フィレンチェ、ピサ、ミラノ等を訪れます。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』で有名なサンタ・マリア・デルレ・グラッチェ教会やウフィツィ美術館、その他世界遺産となっている史跡を、教会のミサに参加しながら研修します。これも、全国の他のカトリック校に例を見ない素晴らしい研修旅行です。

(9) 広報活動の充実

私立学校である本校は、日常的な教育活動を広く理解してもらうことで、少しでも多くの児童及びその保護者に本校への入学の希望をして頂く必要があります。そのために、学校主催の春と秋の2回開催される説明会や体験授業などのイベントを充実させていきます。在校生の保護者による「受験相談室」を拡大させて、受験時の不安を少しでも取り除き、入学後の南山のキャンパスライフを楽しんでいただけるようにします。また、本校の受験志望の裾野を広げていくために、私学協会を核にしたPR活動・イベント、学習塾などが実施する説明会の内容・情報を充実させていきます。

IV. 検討課題

1. 学校全体

(1) 専任教員枠の検討

新カリキュラムによって時間増となった理科、社会、および数学の専任教員数の増加を検討し、学習面だけでなく生活面でも生徒を支援していきます。

(2) 教職員の学園内単位校における人事交流

教員交流制度に基づき学園内単位校との人事交流に努めることで、教員の資質向上を目指し、より良い実践を共有することで、学園内高等・中学校の活性化に繋げていきます。

(3) 外部評価についての検討

現在中学校では「学習アンケート」、高校では「進路調査」を実施して日々の授業の点検をしています。第三者による外部評価を受けることで授業を中心とした教育活動の見直しを検討します。

2. 教育

(1) 校外行事の再検討

実践を重ねることで充実しつつある、中1の「市内探訪」、中2の「職業体験」、中3の「福祉体験」と平和教育である「旅」、高1の「オリエンテーション合宿」、高2の「研修旅行」の内容を、より生徒の成長と社会性の発達に結びつけるよう、内容を吟味します。

(2) 『教員ハンドブック』の作成

20代・30代が3分の2を占める教員構成の中、日常の諸活動に関して、カトリック学校の教員として基本的な教育姿勢をまとめた『教員ハンドブック』の作成が必要となっています。HR指導・学習指導・進路指導・生活指導・部活指導等に関して、『進路・教務要覧』とは別の観点から建学の精神に則った規約集をまとめ上げます。

以上

2014年度 南山高等学校・中学校（女子部）事業計画

I. 2014年度事業計画の概要

高等学校の新学習指導要領に基づく教育課程も年次進行で始まり、2015年度の全面改訂に向けて、女子部では新しいカリキュラム編成を進めています。一貫教育をより強力に推進するために「併設型中学校・高等学校」システムを生かし、高校の授業内容を一部中学に移して、授業の体系化・高度化を図っていきます。

広報面では、Web ページの拡充に努めるとともに、Facebook ページを開設し、最新情報をいち早く在校生、保護者、卒業生、受験希望者、その他女子部に關心をもつ方々に発信していきます。

宗教教育の充実は、『人間の尊厳のために』という教育モットー（建学の精神）の具現化に関わる大事な課題です。2012年度に新設した中2の宿泊行事「修養会」や、各学年の宗教講話を今後も継続し、他の行事との系統的なつながりをより堅固なものにしていきます。ボランティアへの取り組みも、重要な活動として積極的に拡充していきます。

2013年度には英語スピーチ大会での全国優勝や、棋道部の全国大会入賞、テニスの日本代表選出、国際科学技術コンテストでの入賞等、全国レベルで活躍する生徒が増えて来ました。「生徒一人ひとりには、必ずひとつの尊い使命をもって生まれた、かけがえのないただ一人の人なのです」という学園創立者の言葉を今一度胸に刻み、生徒達が、その多彩で豊かな個性を、さまざまな分野で存分に発揮できるよう、心を尽くしてサポートしていきます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 高等学校新学習指導要領実施に伴う女子部高2カリキュラムの改訂

6ヵ年一貫教育の観点から2015年度に完成する高等学校新学習指導要領の全面改訂を見通し、2014年度には高等学校新学習指導要領に従って高2カリキュラムを改訂します。具体的には、旧学習指導要領に基づいた『現代文』『古典』『英語Ⅱ』『文法作文』を廃し、『現代文B』『古典B』『コミュニケーション英語Ⅱ』『英語表現Ⅱ』の4科目を新設します。科目名の変わらない他の教科も、新学習指導要領に沿って内容を刷新します。また、高3の数学・理科については、文部科学省の指示に従い、新学習指導要領に沿った学習内容を先行実施します。

(2) Facebook ページ開設による広報活動の充実

Web ページの拡充に加え、Facebook ページを開設し、最新情報をいち早く在校生、保護者、卒業生、受験希望者、その他女子部に關心をもつ方々に発信していきます。

2. 施設・設備

(1) 調理実習室の調理実習台等厨房機器の更新

調理実習台、ガスレンジ、給湯器を全て新しいものに取り替え、それに伴うガス水道配管設備工事、床かさ上げ工事を実施します。最新の設備で快適に調理実習や部活動ができるよう、整備していきます。

(2) 第2体育館照明器具の取り替え

照明器具を水銀灯および白熱灯から、LED照明器具へ全面的に取り替え、省エネを図ります。

(3) Conversation Lab の机・椅子の更新

Conversation Lab(英会話の授業等に使用する20名規模の教室)の2教室の机・椅子を全て新しいものに更新し、英会話や部活動がより楽しく行えるよう、整えていきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教精神に基づく人間観・世界観・「人間の尊厳のために」(建学の理念)生きる人となるための価値観の育成

総合学習やホームルーム活動の中で、宗教の授業とは別に講話の機会を設けています。本校の校長や指導司祭だけでなく、他の修道会の神父にも依頼し、中1から高2までの宗教講話を実施していきます。中3と高2は、長崎研修旅行・沖縄研修旅行の折にも、現地の教会で平和の祈りを捧げます。毎週月曜日の朝礼時には、指導司祭による『朝のこころ』(講話)を、全校放送しています。また、毎月1回、放課後、チャペルにてミサを行っています。

中2の宿泊行事『修養会』や、中1クリスマス修養会(中1の希望者を対象に毎年多治見研修センターで行われますが、例年多数の生徒が参加します。)でも、毎年宗教講話やワークショップを実施しています。

また、クリスマスの夜には、音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサートを金山で開催します。

(2) 6ヵ年の体系的な一貫教育の確立

中高6ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学 学習の手引き(教科別)』・『高校 学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付します。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスや様々な学問分野の紹介、職業紹介、入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を、中3から高3までに配付します。秋には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『別冊進路の手引き』を中1から高3までの全校生徒に配付します。6ヵ年のゆったりした流れの中で生徒達が自らの将来をじっくりと構想できるように、合わせて11冊の『進路の手引き』が在学中に配付されます。

安全のための生活指導の一環として、中1では「インターネット安全安心講座」、中2では「対話型防犯教室 ― 痴漢被害等に遭わないために」を、専門家の講師を招いて実施します。

6ヵ年の縦のつながり・交流を推進するため、全学年が一齐に行う大掃除で、高校生を中学生のクラスにリーダー・アドバイザーとして派遣したり、高校生を中1クリスマス修養会にお手伝いスタッフとして派遣したりしています。

秋には、芸術鑑賞会を実施します。(これまで、劇団四季の公演、名古屋フィルハーモニー交響楽団の公演、狂言・落語等の鑑賞を実施してきました。)

高3の3学期の特別授業では、6ヵ年の集大成として、高3担当以外の先生も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい、有意義なものにしていきます。

キャリア教育の一環として、卒業生を含めて外部から講師を招き、特別授業や講演会を実施します。(これまで講師に、臨床心理士、弁護士、判事、医師、TV放送編成制作局員、一級建築士、日本モンキーセンター学芸員、ジャイアントパンダ飼育係、警察署少年係、様々な分野の大学教授等を依頼しました。)文科系、理工系、医学系等の系統別進路講演会の実施も検討していきます。

中1から中3までは「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高1から高3までは「スタディサポート」、高3は外部模試を実施し、6ヵ年を通した系統的な学習・進路支援体制を推進していきます。

(3) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア・サポート体制の強化

スクールカウンセラー(臨床心理士)、教育相談主任、養護教諭、保健委員会委員長、生活指導部長、教頭、副校長で構成する校内サポート委員会を定期的に関き、各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別サポートを継続していきます。保健室の常時2人体制も継続していきます。

(4) 併設型中学校・高等学校システムの活用

中高連携をより一層強化するため、2012年度に「併設型中学校・高等学校」に移行しましたが、そのメリットを更に活かし、これまで高校でしか購入できなかった教科書の一部を中3で購入し、中学の授業をより高度な内容にしていきます。

(5) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

家庭との密接な連携を推進していくため、保護者対象の講演会も実施していきます。(2013年度は、キャリア・ディベロップメント・アドバイザーによる講演[演題「なりたいたい人になるために」中2保護者対象]を実施しました。)

学年別保護者会、クラス別保護者会、個人面談だけでなく、バレーボール部、スキー部、陸上部、サッカー部、テニス部、バスケットボール部、茶道部では、部活動レベルの保護者会も実施しています。

保護者対象の「宗教講話」も検討しています。学年通信・クラス通信の拡充による、学年・クラスと家庭とのより一層の連携強化も図っていきます。

3. 教育・研究

(1) 国際的視野の育成

国際的視野の育成を図るため、夏休みの海外研修として、主に高1希望者を対象として、オーストラリアコース・イギリスコースの2コースで実施します。

(2) 男女別学の特色を生かした教育の推進

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、春には、男子部ブラスバンド部・女子部器楽部の合同コンサートを開催します。その他、陸上部が合同練習を実施したり、生徒自治会レベルでの交流も実施してまいります。

(3) 特色ある教育づくり

文科省委託事業SPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)に申請し、ニホンザルのコミュニケーションに関する研究や実地観察のための研修等を計画しています。

世界116カ国が参加する文科省指定事業「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校に選ばれていますので、グローブ委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査等を続けていきます。今年度も、その研究成果を発表する予定です。

理科主催の特別企画として、様々な分野の女性研究者による「出前授業」を計画したり、国語科主催の特別企画として、古典探究のための「京都ツアー」を計画してまいります。

(4) 教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年に実施します。社会科教科会を中心に、教員向けの積極的な授業公開を実施します。

2014年度の教育・研究活動をまとめた『年報』25号を発行し、教員の研鑽・相互学習を促します。

(5) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進

南山大学説明会、南山大学キャンパス見学会、NFS(南山フレッシュマンサポート)による南山大学ガイダンスを実施します。また、南山大学学園内オープンキャンパスにも参加します。

総合学習の一環として、高1を対象に、南山大学の各学部の先生による特別授業「南山大学土曜セミナー」を実施します。教育実習においては、本校卒業生の他に南山大学学生も受け入れています。

南山大学人類学博物館との連携によるワークショップを、社会科主催の特別企画として検討しています。

小中高協議会や引継ぎ分科会等で、小学校と中高の教員間の意見交換、交流を実施しています。

小学校聖歌隊と女子部音楽部の文化祭での交流、小学校聖歌隊と女子部器楽部の合同チャリティーコンサート等、児童生徒間の交流も実施しています。

南山大学の協力によって、教員免許更新が日常業務に支障なく行われています。また、女子部教員向けに「南山学園教員免許更新のガイドライン」を設けています。

4. 社会貢献

(1) 地域清掃

地域への感謝の気持ちも込めて、枋中近辺の地域清掃を含む「全校一斉大掃除」を年に2回実施します。

生徒自治会主催による「三校(男子部・女子部・中京高)合同地域清掃」を実施します。

(2) 募金活動

宗教活動委員会が呼びかけ、クリスマス献金(教会を通じた、世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)を実施します。

生徒自治会が呼びかけ、学校祭収益金(バザー等)を、社会福祉活動、国際医療活動、私学奨学金等のために寄付します。

多数の教員有志が呼びかけ、「(被災地支援)チャリティーコンサート」を開催し、その中で募金活動を実施します。また、現地

ボランティアに参加した教員や生徒による「被災地報告」も検討しています。

本校では、見えない部分での生徒達の社会貢献を奨励しています。

(3) ボランティア活動

器楽部による医療施設でのクリスマスコンサート、小百合会(主にボランティア活動を行う部)による特別養護老人ホームでの介護、催事等のお手伝い、希望者による就労継続支援事業所でのお手伝い等を計画しています。

キリスト教精神を理解し実践するため、種々のボランティア活動への参加を奨励しています。

5. その他

(1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、不審者侵入時の緊急対応訓練も継続していきます。この訓練は今年で10年目になります。

火災・地震対策のための避難訓練も継続して実施します。

愛知県警や臨床心理士会に協力を依頼し、クラスごとに、痴漢対策等の「防犯教室」を実施します。(中2対象)

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、校内サポート委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携を、より一層強化していきます。

教員による授業中・放課後の校舎内巡回も継続していきます。

全校一斉メール配信、学年ごとのメール配信、クラスや部活動ごとのメール配信の他、校外行事等についても配信体制を整え、きめ細かい多系統の配信を整備しました。緊急連絡をより早く的確な内容で生徒・保護者に伝えるため、学校(送信者)の携帯電話やパソコンから生徒・保護者(受信者)の携帯電話やパソコンにメールで直接連絡します。お預かりする個人情報はメールアドレスのみで、委託業者のサーバで厳重管理しています。

学校からの配信のみでなく、生徒や保護者からも応答が可能になるよう双方向配信システムも採り入れています。

(2) 広報活動の充実

年2回の学校説明会の実施、年間30回以上の外部説明会・個別相談会への参加を継続していきます。

最新の学校案内誌の内容をWebページ上で閲覧できるようにし、学校紹介DVDもより一層活用していきます。

全教職員一丸となって、学校説明会、外部の説明会・相談会、Webページ、広報資料の充実に取り組んでいきます。

Webページに在校生・保護者向けの情報(パスワード設定)を発信し、カトリック校ならではの、学校と家庭のきめ細かい連携を図っています。生徒に配付した学年プリント等も保護者が直接見られるようになっています。本年度は、その情報を、より充実したものにしていきます。

III. 検討課題

1. 学校全体

(1) 専任教員増の検討

カトリック校ならではのより一層のきめ細かい生活面・学習面のサポートを図るため、更なる専任教員数の増加を検討していきます。

(2) 教職員の学园内単位校における人事交流

教員交流制度に基づき学园内単位校との人事交流に努めることで、教員の資質向上を目指し、学园内高等・中学校の活性化に繋げていきます。

(3) 外部評価についての検討

現在、種々のアンケートを実施して、日々の教育活動の点検をしています。今後は、第三者の外部評価による教育活動の見直しも検討していきます。

2. 施設・設備

とりわけソフトボール部、サッカー部、陸上部、テニス部等の運動部が十分活動できるように、広大な運動場用地の確保整備を検討していきます。地下鉄出口から3分という好立地ではありますが、来客者用の駐車スペースが少ないのも、大きな課題の一つです。

以上

2014年度南山国際高等学校・中学校事業計画

I. 2014年度事業計画の概要

2014年度は、帰国生教育に対する地域社会のニーズに沿う合理的規模の学校運営を展開し、これまで以上に生徒の学力の質を高めるとする、理事会から示された本校将来構想方針を、具体的な形にしていく2年目となります。そのため、理事会との連携の下で検討・立案された諸施策の実施を、いっそう推進していきます。その上でこれまで同様、財政的問題にも留意し、教育環境の整備・充実のために、理事長方針に基づく学園内連携をさらに強化しつつ、本校の使命である帰国生教育の将来を展望します。

新たな事業としては、次の各計画を実施します。①学校運営機構の整備を実施し、災害対策や危機管理を万全に行い、生徒の安全を確保します。②施設面では地震に対する非構造部材の安全性確保を実施し、生徒の教育環境を守ります。③帰国生の特質を伸長する教育プログラムの実施を進め、外国語力を中心に国際性を発揮できるワールドプラザを充実させます。④2013年10月11日に策定されたいじめ防止基本方針（文部科学省）を踏まえ、学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本方針を策定し、安心して学校生活をおくることができるようにします。

継続事業の主な計画としては、南山大学での高校英語授業をはじめ、各学部からの出講による特別講座、人間関係研究センターの協力を得て運営しているスクールカウンセリングルームや教員向け研修会を、学園内連携事業として実施します。また地域社会との連携事業として、近隣企業や公的団体の学校施設利用を継続するとともに、学校行事などを通して地域社会と交流し、社会貢献意識を高める教育を例年同様に実施します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 学校運営機構の整備

近年、気象変化による危機発生状況に対応するため、気象庁が「特別警戒警報」を発令するようになりました。本校においては、気象状況に限らず震災などの災害に対しても、在校時や登下校時の安全確保に配慮し、帰宅困難が生じた場合などの危機管理に万全を期していきたいと考えています。そのため、災害対策委員会の組織を、これまでの災害対策本部や防災対策委員組織を見直し、新たに設置し直します。

また、自然災害だけではなく、学校運営において発生する危機状況に対する事前・事後の対応を適切に行えるように、危機管理委員会を新たに設置し、学園の危機管理体制との連携を適切に実施できるようにします。

2. 施設・設備

(1) 非構造部材の耐震性の強化

2012年度に実施された非構造部材目視耐震診断報告書にもとづき、耐震設計がなされた本校の建築構造部のみならず、非構造部材の安全性を確保できるよう2013年度中に検討がなされた施設・設備について、必要性がある部分に対する改善・修繕を実施します。

3. 教育・研究

(1) 教育プログラム改善案推進

理事会との連携により示された、本校帰国生教育の質の向上を図る教育プログラム改善案を、各教科の検討を踏まえて、具体的なプログラムとして展開していきます。

2013年度より先行的に開設したワールドプラザは、2014年度の正式な新規教育事業として、いっ

そう充実します。担当指導教員は、国際交流委員会の中でワールドプラザ専属として位置付け、その上で、他の国際交流企画との連携が容易にできるようにします。また、大学のワールドプラザと連携も展開していきたいと考えています。

各教科で、外国語力を中心に帰国生が有する長所を、将来の社会貢献のために、伸長する教育プログラムを推進していきます。

(2) 学校いじめ防止対策基本方針の策定

いじめ防止対策推進法の施行を踏まえ、2013 年度中に設置した「いじめ対策委員会」を中心に、社会問題化しているいじめ問題を、問題発生後の対応を準備するだけでなく、問題が発生しないように教育環境を整える対策を、基本方針を立てて実施します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 生徒募集（入試制度検討委員会事業強化）

生徒募集は、合理的運営ができる生徒数を確保しつつ、基準学力の向上を目指します。入試制度検討委員会を中心に、優秀な生徒を獲得するための客観的な総合判断基準を、精査します。中学入試の他に、編入生受入れのため編入考査を年間3回実施しますが、それに合わせた編入相談を随時実施しつつ、海外子女教育振興財団や各企業の帰国生徒教育相談室等と連携を強化します。国内外の広報となる Web ページの内容について更なる充実も図ります。

2014 年度は、高等学校3年は5クラス、高等学校2年・1年は4クラス、中学校3年は3クラス、中学校2・1年は2クラスの計20クラスとします。

(2) 教育全般の自己点検

本校の教育に関して自己点検を行い、生徒・保護者の満足度を高める本校教育のあり方を検討し、対応案を提示してより良い教育の実現を目指します。具体策としては、高等学校1年生および中学校1年生の保護者を対象にアンケートを実施し、その内容を自己点検・評価委員会にて分析します。それによって、本校に対する要望・期待されている教育のあり方を認識すると共に、改善対応可能な事柄についての具体的な案を検討し、適時、諸教育活動に反映していきます。また、結果をブリテンに掲載し、広く情報公開します。

(3) 留学制度

留学先で語学を中心に研修するとともに、異文化理解および国際交流を促します。付添教諭も生徒と同様にホームステイをしつつ、交流を通じて国際感覚を身に付け、本校での教育に役立つようにします。また、本校の授業・諸活動に留学生を受入れることにより、全校生徒のレベルで、国際交流意識を深めます。

短期交換留学制度として、継続事業としているものは、次のものです。春期休業期間中に、アメリカ合衆国ノースカロライナ州で2週間ホームステイし、ホープウェル高校とレイクノーマン高校において、各人のレベルに合った授業に参加します。交換留学生受入れについては、7月に生徒および教員が、来校予定です。2014 年度（2014 年3月21日～4月3日）は生徒17名、教員2名の派遣を実施します。

(4) 夏期集中講座（サマースタディ）の拡充

夏期休業期間を利用し、通常授業とは別に、生徒・保護者の知的な要望に応えます。具体的には、本校教員による英語検定試験対策、社会福祉、文化や歴史等の入門講座や体験授業等を「サマースタディ」という名称のもとで開講しています。また、こじま福祉会および小島プレス工業株式会社の協力を得て、実践福祉体験も実施しています。さらに、貴重な海外経験を有する保護者有志にも担当を

依頼します。これらを生徒および保護者の希望者に提供します。

(5) 南山学園内連携事業推進

各単位校と連携を進め、より発展的な教育の実施を目標としています。その具体策には、次のようなものがあります。

①2005年度から南山大学総合政策学部と連携し、高等学校3年生が南山大学で受講する講義を本校の英語単位(3単位)として認定しています。(2007年度からは、受講生数を当初より5名増加の25名で実施しています。)②南山大学理工学部との連携は、理系志望生徒対象に実施される学園内系列学校対象のオープンキャンパスに参加しています。③教職員の研修について、南山大学人間関係研究センター協力の下、生徒指導に有益な『現職研修会』を開催しています。④南山大学進学説明会も、本校内で実施しています。⑤逆に、本校からPTAが訪問し、大学(名古屋・瀬戸キャンパス)見学会を実施しています。

(6) スクールカウンセリングの充実

保健室の来室者中心に、精神的問題を訴える生徒もおり、専門的なスクールカウンセラーによる適切な対処をする必要が生じます。そこで、週1日のカウンセリング・ルーム開設日を設定し、心の専門的ケアを実施しています。カウンセリング・ルームの運営に関しては、過年度の実績を踏まえつつ、南山大学人間関係研究センターによる指導・協力を得て、スクールカウンセラーとともに運営方法を策定し、いっそうの充実を図っています。

直接の対象者は生徒ですが、教員が専門家と直接相談できることで、保護者との関係において、適切な協力体制を形成できるという効果もあげています。

(7) PTAからの本校教育活動に対する助成

PTAから、各教科等、本校で実施する教育活動の理解を得た上で、資金的・物質的な支援を受けることにより、教育環境の維持、積極的な教育プログラム展開を促進しています。

具体的に、PTA予算の「部活生徒会活動助成金」、「教育助成金」、「図書費」をはじめとする各種助成金を受領するとともに対象範囲等の拡充をPTAと協議していきます。

(8) 生徒表彰「校長賞」の実施

生徒が成した努力の結果に対してその榮譽を称えかつ記念し、さらに努力を奨励するため、学則に則って校長賞を与えています。これは同時に全校生徒への動機付けともなっています。前年度における生徒の学業・諸活動から判断し、対象生徒を決定し、表彰は、新年度の第1学期始業式において行っています。(受賞者は当該年度の指導要録に記載)。中学校2年生～3年生、高等学校1年生～3年生、各学年1名の計5名の生徒が対象となります。

(9) スクールバス運行の円滑化

乗車人数の超過を防ぎ、安全な運行を図ることを目的にして随時、スクールバス運営を検討しています。最適なスクールバス運行台数の検討や、利用生徒の乗車指導(マナー)の徹底を目指しています。2011年度から利用者数が集中する最終下校便に、名鉄バスの業務委託増発便(1便)を加えましたが、これに関して2014年度は、通学バス交友会役員会における了承を得た上で、生徒数の減少に応じ、文化祭までの期間とします。スクールバス利用生徒にとっては、積み残し等の問題が解消され、利便性が増しました。

(10) 看護師を保健室へ配置

生徒の健康管理や部活動中の怪我等に対して、養護教諭1名の体制で不十分な状況を解消し、万全の体制で応じられるように、保健室業務に関して、業務委託看護師を配置しています。

これにより、不慮の怪我、突然の発病で病院付添いが必要になった時も、生徒在校中の保健室利用が可能となっています。

(11) 合理的な運営規模に向けた施策の実施

将来構想上、合理的とされた運営規模に向けた施策を実施し、同時に、生徒の質を向上させることが実現できる教育体制を整えていきます。具体策として、中学入試における合格者数を45名程度、中高編入試における合格者数を各学年5名程度とし、その生徒数に合わせた合理的な学校運営を実施していきます。

(12) 入試制度改定と効果検証

将来構想上決定した2013年度生徒募集要項に基づく中学校入試・高等学校・中学校編入試を実施し、入試制度を改定した目的である質の高い生徒を確保できたか検証します。

具体策として、2013年度中に実施された中学校入試・高等学校・中学校編入試の結果、入学した生徒の質を判定するため、2012年度より設置された入試制度検討委員会において、学力を中心に入試制度改定効果を検証するためのデータを作成し、判断を示します。

2. 施設・設備

(1) 教室設備等

本校は、設置後20年を経過し、施設・設備の老朽化による修繕の必要性が生じている箇所がありますが、これに対して適時、教育環境や安全性に配慮した補修を実施していきます。

例えば、メディアセンターの活用計画は、従来の事業に加え、急速なIT・メディア機器の変化に対応できるよう、利用計画の検討を継続して行っています。

(2) エネルギー管理委員会による省エネの検討、実施

本校では、南山学園環境宣言を踏まえるとともにエネルギー使用の合理化に関する法律等に基づき、2009年度エネルギー使用量と比較して2014年度までに5%以上の削減を目指す全般的な取組みを検討してきました。2014年度も引き続き、より実効性のある対策を推進できるようにするため、エネルギー管理委員会において、数値目標をクリアする施策を検討し、実施します。

空調機器使用の始・終期を徹底し、室温管理（夏季28℃、冬季20℃設定）の厳密化を図り、省エネ機器導入の検討をする等、省エネ診断に基づく提案や各種指針に沿った省エネに資する実行可能な案を委員会で検討し、実行しています。引き続き、電力のデマンド設定を実施する等、過剰な電力、エネルギーの消費を抑えます。

(3) 非構造部材の耐震性の検討

耐震設計がなされた本校の建築構造部のみならず、非構造部材の安全性を確保できるように、次の対策を進めていきます。

2012年度に実施された非構造部材目視耐震診断報告書にもとづき、施設・設備の安全性を確保できるように、適宜、改善・修繕を実施し、施設利用者の安全・安心を得られるようにします。

3. 教育・研究

(1) 宗教教育

カトリックのミッションスクールとして、キリスト教精神の涵養をはかります。諸外国語による朝の祈り、校内ミサ、クリスマスミサ（南山教会）も実施しています。

(2) 語学教育

帰国生である生徒のさらなる語学力向上、国際性の涵養を目的とした教育を行います。①英語の授業は、習熟度別授業を全学年で実施しています。②学園内連携事業でもある、高等学校3年生アドバンス・クラス（選択）の南山大学における受講講座を設けています。③英語による教科授業の実施（将来構想上の課題として検討）も進めています。④高等学校2年生時にITP-TOEFLを実施しています。⑤帰国生の必要に応じて、日本語授業も実施しています。

(3) 情報教育

情報機器を設置して、情報処理能力を高めるための情報教育はもとより、放課時間等に生徒がインターネットを自由に活用して、国際性を養うことできるようにしています。コンピュータをコン

コンピュータ教室に35台、メディアセンターに35台設置し、生徒全員に個別アドレス付与して、利用を推進しています。

(4) 教員免許更新講習の受講支援

文部科学省より導入された教員免許更新制度に対応し、講習受講教員の支援も実施しています。「南山学園教員免許更新の際の費用負担に関するガイドライン」に従う支援を行い、該当する本校の教育職員の利便をはかっています。

(5) 国際交流委員会

本校生徒にふさわしい国際交流、留学プログラム等を開発、企画することを目的として、校務分掌中に委員会を設置し、目的に沿った研究調査、検討を行い、全校生徒の国際交流意識を高める教育を実践します。

4. 社会貢献

(1) 学校施設の社会的利用

地域の公益活動に役立てるため、本校施設の貸出等を実施しています。本校の規程に基づき、施設利用を認めています。現在、次の各公益活動に利用されています。①学校近隣の豊田市民（広域避難場所：体育館、グラウンド）。②豊田市ジュニアオーケストラ（練習場所：講堂）。③豊田市ジュニアマーチングバンド（練習場所：体育館、講堂）。④豊田北消防署（はしご車訓練：中庭、校舎屋上）。⑤小島プレス工業株式会社および関連会社社員（レクリエーション使用：体育館）。⑥その他、利用が認められた申請者。

(2) 地域交流

本校が所在する地域の住民や近隣諸施設と交流を図り、互いの関係性を深めると同時に、本校や学園の社会的役割の認識を高めていきます。

具体的には、本校の文化祭行事へ招待し、接待を生徒によって実施します。また、本校から諸施設を訪問し、演劇、紙芝居、ボランティア等を生徒が実践しています。猿投台団地住民、身体障がい者入所施設とよた光の家の入所者、その他近隣の保育園、小学校、中学校、福祉施設の方々と交流を実践しています。

(3) 同窓会活動（南山常盤会およびアルマ・マーテル）

南山高中学校同窓会「南山常盤会」に所属する本校卒業生の同窓会活動を、本校母校支援の会として発足したアルマ・マーテルと協同し、より活発に展開しています。生徒、卒業生、PTAに働きかけ、本校に対する教育活動支援の輪を拡張しています。

IV. 検討課題

1. 学校全体

(1) 適切な教員配置

理事会より示された合理的規模で学校運営を実施しつつ、同時に、生徒の学力等の質を向上させる教育を展開するために、教員の適切な配置を常に配慮いたします。

(2) 財政状況の検討

逼迫した財政状況に留意し、適切な予算執行に努めるものとしませんが、教育の質や環境は維持していきます。そのために、学校規模に応じた財政計画を立案し、対応していきます。

2. 施設・設備

(1) 施設の老朽化対策

開設後20年を経た施設の老朽化についても、生徒の安全と教育環境の最適化を常に考慮し、対策を立てていきます。

2014年度聖霊高等学校・中学校事業計画

I. 2014年度事業計画の概要

南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を具現化するために本校では「光の子として生活せよ」をモットーとし、キリスト教教育に基づく伝統的な人間教育を中心に据えながら、学習指導を強化し、大学進学を目指す生徒の支援を粘り強く継続してきました。目標を達成して輝きを増す生徒たちの様子や、外部から届く評価の声などにその成果を確認することもできました。

また、県内の私立中学が連続して志願者数を減少させる中であって、聖霊中学校の2014年度志願者数はわずかではあるものの前年度より増加し、聖霊高等学校推薦入試では3年連続で志願者数を伸ばすことができました。今後も厳しい入試が続くものと予想されますが、継続的な学習指導、また広報活動における新手法の導入など、たゆまぬ努力により聖霊の新しい姿を社会的にアピールしていきます。

2014年度以降の最大の目標は、これまでの中学・高校の一貫した生徒指導のプロセスとその成果を教職員で再認識しつつ、全人格教育と学習指導をより一層向上させること、さらに聖霊の優れた教育力を、目に見える鮮明なイメージで表現していくことです。そして、学習塾への対応をも重視しながら、社会全体に聖霊の現状を提示することによって、本校の評価と位置づけについて大きな転換を図ります。

南山大学瀬戸キャンパスの名古屋キャンパスへの統合を契機にして、校内での校舎改築がクローズアップされてきており、校内組織であるS.F.C.20（聖霊の将来と2020年を目標とした校舎建築を検討する委員会組織）を中心にして新しい聖霊キャンパス構想を進める中で、職場の活性化を図り聖霊の未来を語り合い、一致してエネルギーを発揮できる職場づくりを目指します。さらには、聖霊会より提供されたキャンパス内聖霊修道院を、聖霊における宗教教育、ボランティア活動、文化芸術活動の拠点としての積極的活用を進めます。

II. 新規事業

1. 施設・設備

(1) 校内の安全性の強化と教育環境の整備

- ①第1体育館床塗り替え：床の損傷部分を塗り替え、安全かつ美しい体育環境となるよう整備します。
- ②聖霊修道院改修工事：今まで聖霊にはなかった聖堂を修道院内に設置し、宗教的な雰囲気および環境を整備します。

(2) 古い備品等取り替えによる授業の円滑な運用

- ①PC教室のPCおよびシステム更新：WindowsXPのオフィシャル・サポートがなくなることによるPCシステムの更新を図ります。ただし、リースによる更新とし単年度の支出抑制を図ります。
- ②理科第2教室テレビモニター取り替え：使用できず授業に支障をきたしていたテレビモニターを取り替え、円滑な授業を目指します。
- ③グランドピアノの取り替え：修繕も困難なほど経年劣化したグランドピアノを取り替えることで、聖霊の情操教育の可能性を広げます。

2. 教育・研究

(1) 修道院を利用した宗教教育、文化・芸術活動および社会活動の拡充

聖霊会から修道院が譲渡されました。今まで聖霊には聖堂がありませんでしたが、修道院の聖堂を利用し宗教的雰囲気のなかで宗教の授業を行っていきます。また、部室を与えられていなかった

クラブに利用させることにより生徒の自主的なボランティア等の社会活動を推進するとともに、華道・茶道などの文化的活動の拠点としていきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 「南山学園の聖霊」として社会からの評価を定着させ、選ばれる学校への努力

前年度（2013年度）は県内私立中学受験者数が減少するなか、土曜セミナー実施日に学校説明会を実施し、また秋の学校公開日を日曜日に開催し参加者増を図りました。2014年度の中学志願者は前年度をわずかに上回ったものの、入学者数は2013年度並みとなりました。

2014年度も学校説明会、学校見学会を通じて本校の魅力、現実の教育力を社会に広く周知していきます。

具体的な展開としては、塾関係者を対象とした学校説明会を新たに計画し、早い段階で実施します。また学校説明やパンフレットにおける本校の紹介内容を見直し、聖霊の実像を広く発信します。同時にWebページを刷新し新しい学校イメージを定着させていきます。

2. 施設・設備

(1) 動作・機能が不安定な施設等の更新による学習環境の向上

①B棟廊下側の教室扉ガラスフィルム貼り施工：地震災害の際のガラス飛散を防ぐため、2014年度も継続して実施します。

②電気分電盤主開閉器を更新し、電気の安定的な配電を行います。

(2) 長期計画に基づくPC環境の整備

聖霊システム（生徒の入学から卒業までのトータルサポートシステム）用のPCおよび職員室用の古いPCを計画的に更新し、PC環境を整備します。

(3) 聖霊システム改修

学習指導要領の改訂に対応するための長期計画に基づくシステムの整備です。2014年度が最終年度となります。

3. 教育・研究

(1) 学習指導の強化と進学実績の向上

最近10年度ほどの聖霊高校の進学実績向上が社会的に認知されるようになり、学校説明の場面でも積極的にアピールできました。

2014年度は教育課程が転換期に入り、これまで以上の学力定着を図り、進学実績維持・向上を目指します。具体的には新しい教育課程の初年度となる高校3年生の進学支援を強化します。また、中学1年生から高校3年生までの6学年の授業実践をその道筋と共に検証します。

4. その他

(1) 伝統的学校行事（Eve, My 青春）の充実

クリスマス・イヴの伝統的行事として31年という永きに亘り続いてきた「Eve, My 青春」は、2013年度は中学2年生、高校1年生のほかに多数のボランティア生徒の参加があり、ガウンが不足する事態となってしまいましたが、幸い同窓会からの寄付で急遽、ガウンを製作することができました。

この行事は聖霊生が駅にポスターを掲示してもらうために手分けして廻るなど団結することの尊さを学ばせる大切な行事であるばかりでなく、聖霊の知名度を上げる重要な広報としての面もあり、学園内にもひろくPRすることで聖霊教育の姿を学園内にも周知していきます。

IV. 検討課題

1. 学校全体

(1) 新校舎取得に向けた議論の推進

当初、2020年度に校舎建て替えを目指してきましたが、南山大学瀬戸キャンパスの名古屋キャンパスへの統合により大きな変化が生じました。聖霊として校舎を建築するのかまたは改修するのかの方向性を決定します。

2. 施設・設備

(1) 修道院を利用するための改修事業の進捗

修道院を利用し、宗教的な雰囲気での授業運営および文化・芸術活動を進捗させることをねらっておりますが、改修に要する資金が十分でなく、使用する部屋を取捨選択し限定しながら最大の効果を上げる方法を検討していきます。

以 上

2014 年度南山大学附属小学校事業計画

I. 2014 年度事業計画の概要

本校固有の特徴は、開校時に示された「宗教教育の基本方針」がそのまま、「生き方の指導」としての進路指導方針となっている点にあります。すなわち、「校訓を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」を育成する、という方針です。この方針のもと、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく、育てます。

「学園による南山大学附属小学校検証委員会」の検証結果にもとづき、必要な改善を行ってまいります。中でも児童募集に関しては、本校が受け入れたい児童像を社会に明確に示すため、アドミッションポリシーを策定します。また、学習指導の中では、特色ある取り組みである「がんばりタイム」の在り方を再確認し、実施方法の具体的な改善を推し進めます。

ICT 教育では、早期情報倫理教育を重視しつつ、有効性が認められてきているタブレット PC の活用を研究していきます。

昨年度までに実績があったことを継続しつつ、よりよい教育の実現を目指し、改善できることは職員の共通理解の中で行ってまいります。例えば、学習評価については、2015 年度の通知表改定に向けてのチームを作り、より分かりやすい評価方法を探っていきます。また、児童の進路指導については、よりきめ細かな対応ができるよう仕組みと体制を整備していきます。海外研修では、参加者に好評なホームステイの期間を延長する改善を図ります。軌道に乗ったといえる児童の委員会活動では、代表委員会が本格的に機能する体制を整え、そこが中心となって創意工夫して、新たな児童会活動を生みだしていけるように指導していきます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) ICT 教育の推進

「南山大学附属小学校 PC 入れ替えワーキンググループ」での検討結果により、OS として Windows Xp を使っていた PC は全て Windows8.1 搭載 PC に入れ替えます。また、フューチャースクール等での実践で成果が認められるタブレット PC の教育利用について研究を開始します。このため、校内の無線 LAN を整備し、タブレット PC を 1 クラスの人数分導入します。21 世紀のリーダーとして情報を適切に扱うことができるよう、児童に対する早期情報倫理教育をしっかりと行うことを重点として、ICT 教育を推進していきます。

(2) がんばりタイムの見直し

「学園による南山大学附属小学校検証委員会」でも指摘された、がんばりタイムの制度（システム）改善については、2013 年度に検討委員会を設置し、内容、設定時間等様々な方向から校内での議論を重ねています。2014 年度中に新しい形でのがんばりタイムの実施を目指します。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 「人間の尊厳」教育プランの推進

児童を取り囲む教育環境全般にわたり、教育モットーが浸透し実現される環境を整えることを目標に設定しました。

『南山小教員心得』については、前段階として2013年8月28日・29日に教員研修を行い、あるべき教員の姿を話し合い、「教員宣言文」として採択しました。2014年度中に南山小教員心得の完成を目指しています。

(2) 個別支援教育の構築

個別の教育的な配慮が必要とされると判断した児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行いました。一貫した支援が受けられるように具体的な支援内容について全職員に周知し、全校での支援体制を確立しました。

2014年度は、スクールカウンセラーにも加わっていただくなど、より効果的な支援体制を確立したいと考えています。

(3) 家庭との連携

クラス懇談会を学期ごとに実施し、クラスごとに保護者と教員が双方向の対話をしました。

2014年度は、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活、家庭生活がともにより豊かなものとなることを目指します。クラス懇談会の質を向上させ、学校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の考えも理解できるようにします。

2. 教育・研究

(1) 学習指導

文部科学省が行っている全国学力・学習状況調査に2013年度から参加し、児童の学力を全国の結果と比較するなど客観的に確認し、課題の解決に向けて指導の改善に取り組みました。

また、学習評価については、2015年度の通知表改定に向けてのチームを作り、より分かりやすい評価方法を探っていきます。同時に、全教科におけるより効果的な学習指導方法の確立を研究していきます。

(2) 英語教育

2013年度は、全学年においてカリキュラムの概要を固めるとともにフィードバックの方法を見直しました。最終到達目標と評価については、児童の実態をもとに、整理・検討を継続します。

また、英語科における全学年のカリキュラムの整合性を確認し、各学年の到達目標を見据えてチームティーチングによる教授法の研究・開発を行っていきます。

(3) 海外研修旅行と学校間交流

国際的視野の育成および国際性涵養の一環としての研修旅行や海外の学校との交流を実施しています。2013年12月には台湾聖心小学校の訪問を受けました。また、2013年7月に本校児童10名がオーストラリア・シドニー市に10日間滞在し、現地のカトリック小学校で交流活動・ホームステイ等を行いました。実施にあたり、事前・事後の活動も行い、特に帰国後は、参加者による研修報告会を開催して高学年児童に成果を還元しました。

2014年7月には本校6年生児童32名が研修を行う予定です。2013年度の反省をふまえ、

ファームステイを廃止し、ホームステイの日数を増やします。

2012年度末に本校児童19名が訪問したシンガポール共和国Anglo-Chinese School (junior)との学校間交流については、相手校の事情により相互訪問が困難な状況になっています。イスラムの文化に触れる状況を確保しつつ、相互交流できる学校の開拓を進めます。

(4) 生活指導

児童の生活改善に向け、3つのキーワードを策定し、指導の重点を明確にしました。生活指導の情報の流れを確認し、情報をできるかぎり共有できる組織を確立しました。目指す児童像を実現するために、月1回具体的な生活目標を決め、継続的に行動を振り返る機会をもちました。

2014年度は、児童自らが設定した具体目標と向き合う機会をつくり、児童が自主的にモラル向上に取り組めるようにします。具体的な目標を教員全体で統一し、改善が実現されるまで指導していきます。

(5) 中学接続に係る取り組み

本年度も児童や保護者はもちろん、全教員にも進路指導の在り方について説明する機会を設け、日々の教育活動の中で、人間の尊厳の推進者として成長できるよう教育活動を行いました。

2014年度は、児童の進路指導について、よりきめ細かな対応ができるよう仕組みと体制を整備していきます。

(6) 大学・高校・中学との連携

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図りました。具体的な連携として、宿泊学習・校外学習での訪問、学生・生徒クラブによる演技・演奏披露、アフタースクールや入試での学生による業務補助、大学教員を講師とした教員研修などの開校以来継続して実施している事業が定着しました。

2014年度も、さらに多くの関係者が参画し、実施形態が多様化していくよう推進します。

(7) 児童の自治的活動

委員会活動、クラブ活動、異学年交流等、児童の自治的な活動の場を充実させてきました。

2014年度は、代表委員会が本格的に機能する体制を整え、そこが中心となって創意工夫して、新たな児童会活動を生みだしていけるようにしていきます。

(8) 児童の安全の確保

学期に1回、「色別下校班会」を実施して登下校の安全について指導しました。また、担当教員と児童が通学路を一緒に歩き、通学途中で気をつけるべきことについて情報を共有しました。さらに、保護者会「わかみどり」の活動として、月1回「見守りデー」を実施し、登下校の安全確認を行いました。

不審者情報や緊急情報に関しては、メール配信システム「南山小通信」で保護者に配信し、安全を確保できる体制をとりました。

校内の休み時間には、グラウンドの見守りを複数体制で組織し、安全管理を行うことができました。2014年度もこれらの活動を継続します。

(9) 教師力の向上

2013年度の授業研究では、生活科・社会科を研究教科とし、年間を通じて研究を重ねました。その成果を学校公開の授業や児童の実践発表で披露すると共に、教科指導の考え方を校外にも発表しました。

また、授業力の向上に向けては、特に経験の少ない教員の教師力育成のための研修を定期的に行いました。

教育モットーに対する教員の理解については、今後も引き続き研修内容に組み込んで進めていきます。

(10) 人間関係研究センターとの関係による教員研修

夏休みの2013年8月28日・29日の2日間、本校の教員を対象にして南山大学で組織開発のワークショップを行いました。2日間のワークショップを通して、それぞれの教員や教員集団の強みを発見しました。

2014年度は、夏休みに再度ワークショップを企画する予定です。

3. 施設・設備

(1) 第2・第3グラウンドの活用

第2グラウンドは、日時計による太陽の動きの学習の場として活用しました。第3グラウンドに花壇を配置してジャガイモなどを植え、理科学習の場として活用しました。

2013年度は、活用の可能性について教職員や保護者会「わかみどり」の話し合いの場を設定しました。今後の展開について複数の案が上がっています。

2014年度は、案の具体化に向けて話し合いを進めていきます。長期的な視野に立って、活用方法を検討していきます。

4. その他

(1) 児童募集

入学試験では、昨年度までとは違う視点も取り入れて問題作成を行うことができました。また、新2年生の転編入学試験を行いました。カトリック学校からの転入についての制度を整え、実際に児童を受け入れることができました。

2015年度入試における受験生の選抜にあたっては、幼児期の身体および心の状況についての把握をさらに推進し、より多角的な選抜が行われるように教員のスキルを高めていきます。

「学園による南山大学附属小学校検証委員会」で指摘された、アドミッションポリシーの策定は急務であり、本校がどのような児童を受け入れたいかを社会に示すことに取り組みます。

(2) 広報活動

学校説明会では、今年度より本校卒業生の様子をVTRで紹介し、卒業後の姿もイメージできるような工夫を行いました。

2014年度も、本校が「人間の尊厳のために」という教育モットーのもとに教育活動を展開している様子を様々なメディアに積極的に発信していきます。また、幼稚園や保育園を訪問し、本校資料の配付や説明を行います。早い段階から本校に興味や関心を持ってもらえるような手立てを講じていきます。

(3) 保護者へのカウンセリングの広報およびカウンセリング事業

2013年度は、直接教育相談担当者へカウンセリング予約ができる体制を整えました。また、人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的に行いました。

2014年度も子育て支援講演会を開催し、子育て支援グループについても再募集します。カウンセリング予約についてもさらなる広報を行っていきます。また、スクールカウンセラーとの連携も図っていきます。

(4) 地域との連携

アフタースクールのリコーダー講座が地域の祭りで発表を行うなどいりなか商店街や八事商店街との連携が深まりました。南山小みまもり隊も増加しています。

2014年度は、生活科や社会科の学習で地域の方とふれ合う活動を増やし、児童の地域への感謝の気持ちをさらに高めることを目指します。地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みます。これが、児童の安全確保にもつながると考えます。地域の小学校とも連携し、地域社会の中でともに児童を育てていきます。

IV. 検討課題

1. 学校全体

(1) 危機管理体制の充実

2013年度は、学園の危機対応担当理事の助言をいただきながら、危機への対応を適切に行うことができました。

危機を未然に防ぐ安全感覚を磨くことが必要と考えます。事故を事件にしない初動体制を整備し、組織的に機能させます。学園の危機管理委員会との連携も密にします。

潜在リスク表を作成し、対応マニュアルを整備します。事件となった場合の対応も先行事例から学び、情報を適切に管理・発信できるようにします。

(2) 自己点検・評価活動の推進

教師による学校評価を行い、教育活動全般について、自己点検や評価委員会などにより組織的に改善点の検討を進めてきました。2014年度も、PDCAサイクルを確立し、課題点を明確に洗い出し、積極的な見直しを行って教育活動の向上に努めていきます。また、外部評価の実施に向け準備します。保護者アンケートを実施し、保護者の意見も学校運営に生かしていきます。

(3) 将来構想の検討

今後の南山大学附属小学校の発展のために、これまでの教育活動の成果と問題点を検証し、改善のための具体策をつくります。

短期的（数年）、中期的（5～7年）、長期的（それ以上）な取り組みを組織的・計画的に推進していくことができるように定期的に話し合いをしていきます。その際、海外研修等の機会を利用し、国内外の先進的な事例に学びながら、しっかりとした将来ビジョンを確立します。

(4) 財政の改善

収入について、開校後初めて授業料を改定しましたが、転出等により、学生生徒等納付金の収入が伸びませんでした。新3年生の転・編入試験実施に加え、カトリック学校からの転入学制度を新設し、年度途中で4年生および6年生の転入生を受け入れました。

継続的な寄付金の呼びかけにより、昨年度と同等の多額の寄付を得ました。引き続き積極的な呼びかけを行います。

支出については、全教職員に節約の意識が浸透してきたとみられます。夕刻の全館消灯のように、これまで当たり前に使ってきた経費の中に抑えられる部分がないかを検討し、無駄があればそれを削る努力を働きかけます。

開校6年が経過し、施設設備の修繕が年々増えています。恵まれた教育環境を維持するための中期的な保守計画も念頭に置いて、予算編成や事業計画を行います。

以 上